



●ある集い●神戸ひげクラブ

ヒゲにも市民権を 心優しきヒゲ男の集い

午後7時、ひげ面の男達が、ドイツ料理「ローテ・ローゼ」に集まってくる。ひげを愛し、酒をこよなく愛する男達の集いが「神戸ひげクラブ」。設立のきっかけは、ポートピア81が開催された年。「ひげは権威の象徴として見られてきたがそうではない。優しさの象徴なんだ。ひげにも市民権を」と、酒の席で半ば冗談から出た一言から結成に至った。

現在のメンバーは、高橋洋三さん（タカハシ・パール）を最古参に、写真右上より、近澤眞さん（北村真珠）、山本光史さん（光真珠）、ブラディク・ジャベリさん（ユニバーサルパール）。写真右下より、松田耕治さん（ローテ・ローゼ）、呉春明さん（ユニバーサルタクシ）、稲原廣法さん（イナハラ）、黒田育宏さん（CLODA）、加藤良治さん（加藤パール）、川崎啓一さん（関西学院）。この日は瀬戸本淳さん（建築家）は欠席。会ではワインを片手に、プロ野球の合併問題にはじまり、郵便局の民営化、ついにはひげ面とは無縁だった青春時代のエピソードにまで及ぶ。気がつけば午後10時を回り、空のワインボトルが転がっている。

ひげクラブには、堅苦しい会則はない。あるとすれば、7時の開会時間に合わなければ5000円の罰金が科せられること。これらのお金は積み立てられて、年末のクリスマス会で、孤児たちの里親活動を行う家庭養護促進協会に寄付される。「設立から20年、見た目はみんなふけたけど、気持ちは若い」とメンバーは口を揃える。



●ある集い●K・F・S

KFS 10月マンスリー

神戸ファッションソサエティは、昨年11月に30周年記念イベント「美しい街で美しい仕事を」を開催し、ひとくぎりをつけました。

そして今年、「クチュール・アトリエ・アン・アケミ」オーナー、石原曉美氏を講師に、「私の服飾り、パリサンディカル校・立体裁断研修7回目を終えて」作品・デモンストレーション・スライドをまじえて」を開催いたしました。場所は旧居留地「カフェ・ド・旧居留地十五番館」にて。素敵な食事に始まり、石原先生の仕事にかける情熱とバイタリティーあふれそれでいて心にジーンと響くお話……。こんなパワーがあの華奢な体のどこから出てくるのか！と正直感じてしまいました。それから、素晴らしい作品をご紹介するファッションショーでは実際に石原先生のお客様がモデルをされ、演じる方も、見る方も、心おきなく楽しめたように思います。今回はKFSの永遠のテーマでもある、「美しい街で美しい仕事を」をそのまま表現したマンスリーでした。

これからも様々な企画を考えておりますので、皆様の参加を心より願っております。
 （KFS会長 村岡圭）

■問合せ先

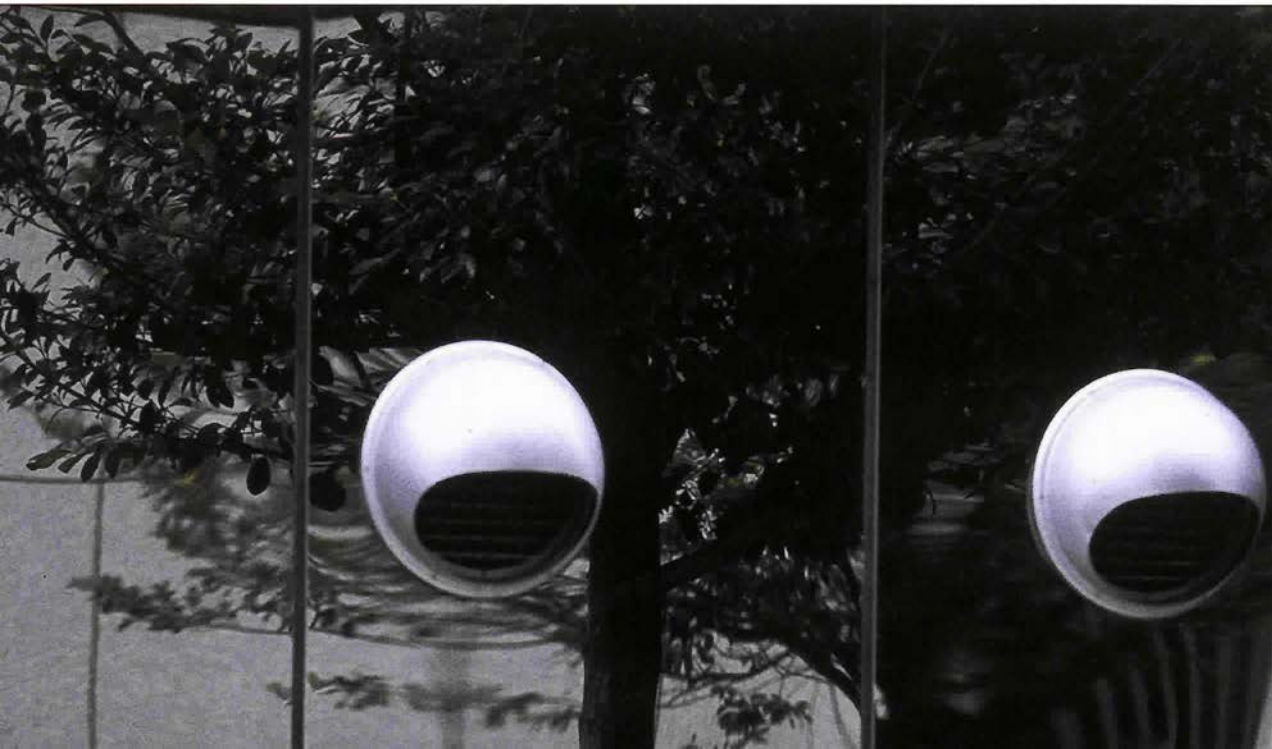
KFS連絡場所
 神戸市長田区池田広町40-1
 (南)ライフワン内
 ☎078-646-8573

ANGLE KOBE

Reflection

November

Photo Mann Kikuchi







アニマル ベビー

Animal Baby

vol. 8

アカカンガルーの赤ちゃんが生まれました

アカカンガルーの赤ちゃんは、生まれたときは1～2 cmくらい、それから半年ほどで、お母さんのお腹の袋から顔を出します。

現在、王子動物園では、2匹の赤ちゃんが、袋から出て活動をはじめました。「赤ちゃんが袋に戻るときは、何か物音がしたときや、危険を感じたときなどです。また、ミルクが欲しいときは、袋の中をのぞきこんで飲みます」と、飼育員の藤井頼久さんのコメント。

アカカンガルーはオーストラリアの内陸部などに生息しています。

王子動物園ホームページ <http://www.ojizoo.jp/>



表紙／石阪春生
セカンドカバー／米田定蔵
目次／小山泰三「ON THE WALL」より

11月号目次◆2004—521

- 10 KOBECCO 2004／川田敦子／岡村 均
- 12 神戸スナップ
- 14 ある集い／ヒゲの会・K F S
- 16 ANGLE KOBE／REFLECTION／菊池 満
- 18 アニマルベイビー⑧ ミニカンガルー
- 20 文学散歩／伊勢田史郎・熊内から布引へ

- 24 N H K テレビ小説 “わかば”
- 26 KOBE SPOT
- 27 神戸栄光教会・トアロードクラフトアートフェア2004
- 28 神戸ファッション特集・オールスタイル総本社50周年／川上 勉
- 32 水彩に浮ぶ絵と詩 稲田勝己
- 34 吉田泰己とその仲間たち 光州日韓文化交流 in KOBE
- 40 木村多恵子の暮しのエスプリ
- 42 神戸のお嬢さん／富岡裕子さん・石井亜佑美さん
- 44 鶴殿麻里絵の神戸老舗うまいもん巡礼／青葉
- 45 ポンソワールマダム⑬／ドゥ・板倉千春さん
- 48 K O B E 観光マンガ t & B ⑤／藤原健二
- 50 井植文化賞授賞式
- 51 私の意見／長澤 昭
- 52 ポエム・ド・コウベ／竹中 郁・え／小磯良平
- 54 創刊43周年記念復刻版名作シリーズ／淀川長治 他
- 60 対談／玉岡かおるのお茶でも飲みますか？②三屋裕子と語る
- 66 震災10年キャンペーン② ジャズビクニック
- 70 名器に出会う／青木重雄
- 72 でん太の教えてドクター⑭／足立 優
- 74 プロフェッサーPの研究室／岡田 淳
- 76 神戸のアーバンデザイン／中川啓子
- 77 神戸のモダンリビング／矢代 恵
- 78 訪問シリーズ／企業変革に学ぶ⑥／丸太や・三木久雄
- 80 次代を創る神戸のニューリーダー②④／カミネ 上根 享
- 84 話題のひろば
- 88 ひょうごウォーク／ボランティアブラザ
- 90 有馬歳時記
- 92 ぴっといん
- 94 イベントスケジュール
- 96 ポケットジャーナル
- 98 応援エッセーめざせV2阪神タイガース最終会／中野友廣
- 102 海・船・港／上川庄二郎
- 104 神戸ストーリー五線紙の街③／宮田達夫・え／中西省伍
- 106 北斎ミステリー②②／中右 瑛
- 110 コーヒーカップの耳②③／出石アカル・え／菅原洗人・
題字／六車明峰
- 112 連載小説 鏡の中のサムライ⑪／中野順哉・え／平田 郁
- 118 プレゼントメイト
- 119 愛読者サロン
- 122 神戸っ子倶楽部法人会ニュース
- 128 KITANO HOT NEWS
- 130 神戸うまいもん＆ドリンキングNEWS
- 131 神戸百店会だより
- 写真／米田定蔵 池田年夫 米田英男

歌と物語の舞台

—熊内から布引へ— 文・伊勢田史郎

(詩人)



いさご山を望む熊内八幡神社



中西為子の歌碑を囲んで伊勢田史郎と柏木薫さん

いさご山
砂子山よぎりのはれてちぬの海の
なみより出ずる月を見るかな

くもち
熊内八幡神社の境内に建てられて
いる中西為子の歌碑は右のよう
に詠める。この辺りから一望でき
る大阪湾（ちぬの海）の眺めは今
もまた美しい。

中西家は代々熊内村（現中央区
熊内町）の庄屋で、為子の父重之、
祖父芳之とともに勤皇の志を抱いて
いた。天誅組首領藤本鉄石、同総
裁松本奎堂、林田藩儒で詩人・国
学者の河野鉄兜など多くの志士が
出入りした。邸内にあった小学（石
田梅岩を祖とする実践躬行の学）
舎「童蒙教訓舎」は、幕末動乱期
には「香学庵」と呼ばれる勤皇の
志士たちの溜まり場になっていた。

秋もはや末葉のかげを命にて誰待
つ虫の露になくらん（鉄兜）

花をまつしたの思ひは春雨の長き
つらさを打ちまぎれつつ（為子）

中西為子はひそかに河野鉄兜に
思いを寄せていた。鉄兜もまた、
容姿端麗・葺合の今小町といわれ
和歌・国学に精通、一絃琴も弾く
為子を、憎からず思っていたであ
ろう。詠草十首を贈っている。し

かし鉄兜には、すでに妻子があり、恋は精神的なものに終わってしまった。

明治維新後、兵庫県令・伊藤博文はじめ多くの人びとが為子に和歌を学んだ。しかし、美人薄命、彼女は三十歳の若さで幽明界を異にした。また好漢鉄兜も林田（現姫路市）の自宅で病没したが、享年四十三歳。短い生涯であった。

熊内一帯は、明治から大正、昭和のはじめ頃までは、閑静な高級住宅地であった。中川与一が小説

「天の夕顔」の舞台にしたのも何となく分かる気がする。天体物理学を専攻する竜口という学生が、あき子という人妻と相思の仲になるのだが、一度だけの唇の触れあ

い以外は、二人はストイックな態度に終始する。最後に結ばれるかと思うのだが、その前日、あき子は病没してしまう。竜口は、「あの人がかつて摘んだ夕顔の花を」

“あの人”のいる天に向かって“花火として打ちあげる”ことが、あき子と消息する方法なのだ、と考

え、また、一瞬にして、その打ちあげた花火が、青く暗い夜空に消えていっても、“あの人”が摘み取ったのだと考える。“自分の喜びとする”というのである。

この小説は昭和十三年に発表されたが、アルベール・カミュは「毅然としてしかも慎み深い」などと絶賛。日本でも、仏・独・英・中などでベストセラーになっている。

あき子と竜口、そして為子と鉄兜。この二組のストイックな愛のかたちを、その哀切さのもつ美の意味を考えながら、徳光院への坂道を上っていった。

天折の才媛の奥つ城

大圓山徳光院は、布引山瀧勝寺の跡地に川崎正蔵（川崎造船所現川崎重工の創始者）が明治三十九年に創建した臨済宗天龍寺派の禅院である。禅道場である



①重文の多宝塔が美しい徳光院の境内
②大圓山徳光院の石段でひと息
③久坂葉子の眠る墓地の観音菩薩を囲んで





行平も愛した布引の滝(離)



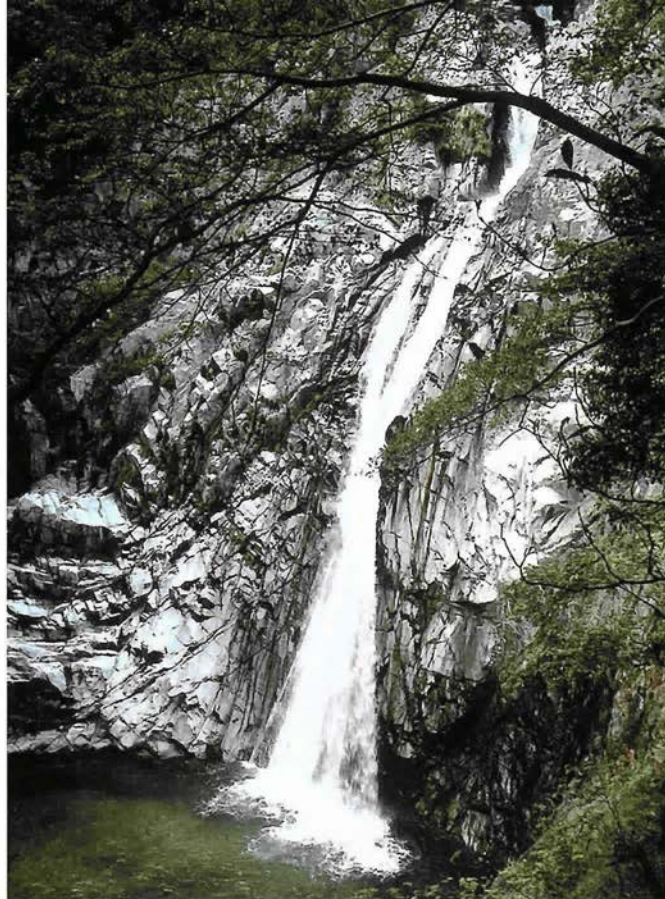
三十六歌仙の句碑をたづねる伊勢田さん

もに川崎家の菩提寺でもある。
いさこの山の神にあるといふ布引の瀧見のぼらんといひて……
在原業平や行平などが瀧見のぼって行った、と『伊勢物語』にあるが、その砂子山いさごやまの北の幽達いさだちの地

に徳光院は所在する。寺域には垂水区名谷の名王寺から移築された多宝塔(重文・室町中期)はじめ本堂、庫裡、山門、鐘楼など由緒ある伽藍が移築、あるいは建立されてよく輪突の美が調えられている。

鉄六甲駅で飛び込み自殺をした。書くことに行き詰っていた。とか、背後に恋愛問題があった。など、さまざまな憶測が流れたが、いずれにしても惜しい二十二歳の夭折であった。

柏木さんは、彼女の日記のすみずみまで目を通して、坂本真三君や私などの交流についても、若干話題になったりした。背後に光芒をひいて飛び去った一個の



生田川の源流、日本三大神滝の一布引の雄滝

納骨堂を守護するように、その上に観世音菩薩が立っておられ、愁いを含んだ目差しを、境内を散策している作家の柏木薫さんや私の方に送ってこられる。柏木さんは、ここに眠っている久坂葉子(川崎澄子)の研究家でもある。久坂葉子は富士正晴主宰の「V.I.K.I.N.G」同人であり、昭和二十五年、「ドミノのお告げ」で芥川賞候補になった才媛である。昭和二十七年の大晦日、阪急電



布引の雄滝の前の狭衣橋。山か

別れと死—愛のかたち

流星”と井上靖は彼女を許したが、私の想念のなかには、その光の穂先が鋭く残っている。



後鳥羽院の句碑



道から望む神戸風景
布引に登る道

西村屋熊内茶寮で丹波栗のカステラを味合う伊勢田さん

ら降りてきたハイカーたちは、その瀧の水量の豊かな、豪宕たる風情を、ただ茫然と眺めていた。『伊勢物語』に、在原行平はここで、和が世をば今日か明日かと待つ甲斐の涙の瀧と何れ高けん”と詠んだ



風情のある句碑があちこちに



一番最初の句碑は藤原定家

とある。この歌の解釈の一つに、行平は須磨の配流を許されて都に帰ることになったが、彼が愛した汐汲みの姉妹、松風・村雨と別れねばならず、その悲しみを詠んだもので、涙は腰掛けていた石を濡らし、その跡は「涙」という文字になった、という。

布引は生田川の源流だが、ここにも、二人の男に言い寄られ、身うごきならず入水する菟原処女（うはな）の悲しい物語（謡曲『求塚』、『大和物語』、『万葉集』、森鴎外の戯曲『生田川』）がたゆたうている。

熊内から布引、生田川の周辺には、重層的に歴史と伝承が眠っていて、時を超えて、深く豊かな、愛と死、喜びと悲しみの姿を伝えてくれる。

撮影／池田年夫

「生まれ育った

神戸の街を

緑いっぱいにしたい!」

連続テレビ小説

わかば



NHK朝の連続テレビ小説「わかば」の記者会見風景。神戸と宮崎のローカル色豊かに繰り広げられる。震災で傷ついた家族が、宮崎から神戸へ。笑いあり涙あり、人情味あふれる物語をさわやかに描いた。ヒロインの若葉役の原田夏希さんの可愛くパワフルな姿が心に残る

「好きな花はなんですか?」

「ひまわりデス」

と、NHK連続テレビ小説「わかば」のヒロイン原田夏希さん（高原若葉役）は、大きな瞳を輝かせて答えた。10月12日の朝、神戸市役所で開かれた「わかば」。い

よいよ舞台は神戸へ。のタイトルのもと、若葉役の原田夏希さん、東ちづるさん、石本興司さん、そして制作統括の小林千洋さんの4人が出席した試写会と記者会見が始まった。

福山雅治さんが歌う主題歌「泣いたりしないで」（作詞・作曲／福山雅治）は、優しく、さわやかだ。

小林さんは「いよいよヒロインわかばが、震災で亡くなった父の志を継ぎ、造園家として神戸で懸命に生きる姿を描いています。宮崎と神戸のシーンをてんこ盛りにした映像が映りますのでぜひご覧下さい」と。

若葉役の原田さんは「チャリー



「好きな花はひまわり!」と
若葉役の原田さん



(上) メリケンパークでの撮影風景
(下) 井川造園で働くことになった若葉

矢田市長と
握手をする出演者



ダーや造園家など初めての役づくりなので、一生懸命やっていききたいと思います」と、映像よりさらに可愛い素顔が印象的。

東ちづるさんは「神戸は震災復興のためにレインボーハウスに協力したり、いろいろと思い出深く、明るい震災復興を表現したい」。

中国へ旅立つ前にと現れた矢田神戸市長は、出演者と握手をしつつ「震災から10年、復興した神戸の街を舞台にドラマが繰り広げられるので、これからは観光KOB Eを全国にアピールしたい」と。

鮮やかな赤レンガに、堂々とそびえ建つ 日本キリスト教団「神戸栄光教会」が、 美しくよみがえる

「赤レンガの教会」として親しまれてきた神戸栄光教会。米国人宣教師が18

86年に設立した教会を移築する形で、1923年に現在の兵庫県庁前に。19

02年に建造されたフランス・ルネサンス様式の県公館と共に、兵庫県の遺産と

して知られていた。神戸空襲も免れた、この歴史的な建造物も淡路大震災で全壊した。

再建までの道のりは、決して平坦なものではなかった。資金的な面が大きかったが、市民の後押しもあり、結果的に国内外から約9億円の寄付が寄せられ、再建の目途がたったのは2年前という。

9月30日、震災から10年を前に、倒壊前の姿かとは同じ神戸栄光教会が完成した。赤レンガに、堂々とそびえ建つ約40メートルの鐘楼。外観を見ると、震災前にあった教会と見違えてしまうほどだ。教会がもつ神聖さ、格調の高さを建物全体で表現している。待ち望んだ信者だけでなく、神戸市民が誇りに感じるような建造物だ。

教会内は、震災前は二階にあった礼拝堂を一階に移すなどバリアフリーに配慮。念願のパイプオルガンも設置された。

10月10日、完成後発の礼拝が行われた。11月23日には、教会を一般公開する献堂式が行われる。

9月30日に、倒壊前とは同じ姿でよみがえった「神戸栄光教会」。撮影／米田英男



坂道にクラフトマンたちの心意気



①苔盆／宮崎早苗さん ②C&Q／片桐卓さん弓さん ③ハワイアンキルト／坂田智佐子さん ④ミニチュアドールハウス／大野せつさん ⑤オープニングを飾るバグパイプ
⑥新谷英子さんのコーチでコマづくり ⑦天窓／戸高章さん ⑧スペイン陶芸のブースも ⑨仮面／村上美穂さん ⑩ステンドグラス／栗林静子

台風22号が直撃するとの情報に10月9日(土)、10日(日)のトアロードクラフトアートフェアは、第8回目を迎えて初めて順延となった。お陰で、16日(土)、17日(日)は、さわやかな秋晴れ。

今年はNHK神戸新放送会館の完成もあり、「帰ってきました」と原口洋一局長。バグパイプ演奏隊も駆けつけ、テープカット。48ブースの内4ブースが欠席したが、初参加のブースも多く楽しいムードに包まれた。

体験コーナーでは、バタさんのガラス工房や、大野せつさんのミニチュアドールハウス体験と、冬ソナ・ミニチュアが人気を集めた。また、新谷英子先生と神戸女子短期大学の学生による「手づくりゴマで遊ぼう」は子供達も真剣。

今年は、さんセンタープラザの会議室での懇親会も約80名が集って、ブースデザインコンテストの発表が。3位はハワイアンキルトの坂田智佐子さん、2位はC&Qの片桐卓さんと弓さん兄弟へ。吹きガラスとボルトマンのコンビが良かった。1位は初参加の苔盆の宮崎早苗さんが選ばれた。

■株式会社オールスタイル総本社50周年記念 ファッションインタビュー

ファッションは平和からの使者、自由のシンボルです

創業者 川上勉さんに聞く



今年9月に創業50周年を迎えた(株)オールスタイル総本社・創業者である川上勉さんは、「ポートピア'81」の提唱をはじめ、1970～80年代の、神戸のファッション業界の発展期に、業界のまとめ役として活躍した。明るい川上節で、創業50周年への感慨、神戸への思いを語っていた。だいた。

〈インタビュアー／小泉美喜子・撮影／菊池満〉

ファッション都市神戸の神殿「モードピア」

——(株)オールスタイル総本社の社屋の「モードピア」という名前には、どのような思いが込められているのですか。

「モードピア」は、モードとユートピアを組み合わせて、モード発祥のユートピア、という意味を込めました。ここがファッション都市神戸の神殿という思いで創ったのです。たくさんの方ファッション企業、生活文化を創造する企業が集まったポートアイランドのファッションタウン：私の言うファッション都市神戸というのは、このような街のことを指すのです。そのファッションタウンの核となる建物「神殿」を創ったのですよ。神殿ということ、彫刻家・新谷琇紀さんの、エバとヴィットリアなど女神像9体とアダモの男神像を配しました。新谷さんとはワインを飲みながら、一晩中話し合ったことも何回ありました。

——この「神殿」が完成したときはどうでしたか。

すごく嬉しかったです。というのは、

ファッションタウン構想が進行する途中で石油ショックがあり、ファッションタウン構想に参加していた同志たちがほとんど出ていってしまい、そのうちぺんぺん草が生えますよと言われたときもありました。そんな折りに、摩耶山にハイキングに行き、帰りのロープウェイの中で、音声ガイドが流れたのです。「ごらんください、神戸市では今、ポートアイランドを造成しています。その中心部には、神戸の文化、日本の文化をリードするファッションの街ができるのです」と。その発案者であった私は手のひらに汗をかきまして、これはなんとしてもファッションタウンを創りあげて、神戸100年の傑作というものになければと、再決心したのです。

ファッションは平和よりの使者

——ファッションタウンに先駆けて、ポートアイランドでは「ポートピア'81」が開催されました。

ファッション都市づくり構想の実現に向けて、商工会議所が派遣した「欧州ファッション都市調査団」(昭和49年)に参加し、その報告会で私が「ポートアイランド完成を機に、世界生活文化博覧会を計画してはどうか」と提案したのが始まりでした。経済が発展する時代の次は、文化の発展が来る。薰り高い文化を生み育



てきた日本を、世界に売りこむべきである。それをリードするのがファッション都市神戸であり、その中心がファッションタウンであり、その起爆薬となるのが文化博であると、提案したのです。当初はむずかしいと言われていましたが、神戸新聞の専務であった畑専一郎さんが電話をかけてきまして、当時の通産大臣に就任された河本敏夫さんが里帰りに来られるので、この世界生活文化博覧会のことをぜひ提案したいと言われたのです。そのことが神戸新聞の1面と6面に大きく出まして、「ポートピア'81」の開催が実現しました。そしてこの博覧会の開催が、ファッションタウン建設の進展、ファッション都市神戸づくりに大きなインパクトを与えたのです。

神戸がファッション都市宣言をする前

は、神戸の産業の中心は、港湾、造船、製鉄業などでしたが、公害などの問題が起きて鉄鋼業界が大変なときで、それらが復活するまで、新たな産業を育成しなければと、当時の神戸市長であられた宮崎辰雄さんはお考えでした。そこにファッションが来た。宮崎さんとお会いしたときに「川上さん、あなたは大きな風呂敷きを広げられた。しかしまだ実績がない。これからは実績をつくるのが大切ですから、ファッション都市づくりに向けて私も応援しましょう」と言われました。それから、ファッション都市づくりを神戸新聞がとりあげ、そして月刊神戸つ子でもファッションの一大キャンペーンを張り、最後は小学校でもファッションを取り上げた。官・産・学・文・民すべてが参加したのです。これは、新聞等の報道によって、ファッション都市のイメージが高まり、心が踊り、盛り上ったのだと思いますね。現在、アジアファッション協会づくりなど、世界に広がっている動きの波の震源が、このファッション都市神戸づくりなのです。神戸は、平清盛の時代から、世界に向かって門戸を開き、発信して、受信する街として生きていくということを運命づけられていると思う。そういう土壌があるということとを、忘れたらあかんと思いますね。世

の中に平和があるとき、ファッションは根をおろす。自由があるとき、花開く。ファッションは平和よりの使者であり、

オールスタイル総本社のヴィクトリアガーデンにて

自由のシンボルであり、文化のパロメーターであると思います。そして、より高い芸術につながっていくものです。それ

までは、衣服だけに限定されたものだと考えられていましたが、人の心をよりすこやかに、より幸せにする仕事はすべてファッション産業だと、私は考えたのです。

来年は震災10年を迎えますね。

震災は大変なことでした。復興も大変なことでした。けれど、それに打ちしおれていることが、震災の犠牲になった方々の回向になるかといえ、全然ちがうと思うのです。それをバネにして立ち上がるのが回向になる。生き残った人々が、あなたたちの分もがんばっていますと、立ち上がっていくことがなにお大切なことだと思っています。

神戸は天下の良港で、ハイカラ神戸という個性、エキゾチックなおしゃれの街・神戸というイメージは無傷です。大自然の哲理を踏まえ、神戸の特色を生かし、神戸の個性、イメージに磨きをかけて発展と飛躍に取り組むことが、神戸を本拠地に活躍する者にとっての使命です。